企業と地域を結ぶ情報コミュニケーション誌

うめナビ

2013.11 Vol.20

「切って」「貼って」「包む」自慢の加工技術
モノ作りで産業界の理想絵図の完成を目指す

ナショナルマリンプラスチック

「社会にモノ作りで貢献したい」と時田社長

災害対策用貯水タンク「貯タンくん」

ナショナルマリンプラスチック(品川区南大井、時田周明社長、03・3763・4601)は、多彩な特性素材の中から選定したプラスチックシートを自在にカットして、保有技術である高周波ウェルダー・熱風溶着・縫製の3つの加工方式で立体機密加工製品を生産している。今年で創立65周年を迎える同社は、ISO9001やJIS認証のライセンスを持つ福島工場で、「切って」「貼って」「包む」加工技術の向上に日々努めている。この工場で作られたフレコン(ターポリン素材の袋状の物流容器)は現在福島県を中心に、放射能に汚染された土を除染する際に使用されており、海外の製品より耐久性に優れていると注目されている。

昭和30年代までの同社の主力製品は、船で重油を運搬するためのタンクであった。職人技を駆使して、船の形に合ったタンクが作れることを強みとしていた。その後、排他的経済水域200海里の設定により、このタンクの需要は減少したが、その加工ノウハウは継承され、現在では工業・防災・農業等の各市場でそれぞれの仕様に合わせた液体容器に活かされている。その他にも輸送と保管に適し、防水性・気密性に優れ食品衛生法に適合している「シャトルエース」というフレコンも製造している。また、災害対策用の貯水タンクやウォーターフェンス、さらにはプールやトランポリンといった保育用品まで手掛けている。現在は、保育用品からの応用で、介護用品は作れないか日々模索中だ。時田社長は「こんなに幅広い市場に対応した製品を取扱っている企業は他にない」と自信を見せる。また、「お客様の要望を形にする、お客様本位のモノ作りを通して『そこまでやるか』と驚いていただけるようなレベルのモノ作りがしたい。そしてモノ作りで産業界の理想絵図のジグソーパズルを完成させたい」と夢を語ってくれた。空いている空間をどんなピースでどのように埋めるかを考えれば、まだまだ需要はあると言う。

東京オリンピックの開催やリニアモーターカーの開通等、社会が変化していく中で、同社の製品がさらに多くの市場で活躍する日が必ずや訪れるだろう。

東京都大田区の元気いっぱいの幼稚園！
心も身体も元気な強い子に育ってほしいと想いをこめて

矢口幼稚園

楽しく学ぶ園児たち

矢口幼稚園(大田区東矢口、新納正之理事長、鈴木喜恵園長、03・3731・2720)は、昭和5年の開園以来、長年「世の中に役立つことができ、今後の日本を背負っていく子供たちを育てる」ことをモットーに、社会や保護者のニーズに対応し、他の幼稚園や保育園とは異なったさまざまな取組みを行っている。

同園の代表的な取組みの1つが、「2歳児からの4年保育」である。1年早く集団生活を始めて、異なった年齢の園児たちと少しでも多く触れ合うことにより、いろいろなことに興味を持ち、それが、言葉や心身の発達に良い影響を与えるのである。

また、働く保護者のニーズに対応し、「延長保育」を行っている。午前7時30分から午後8時30分までのお預かりが可能であり、文部科学省管轄の幼稚園でありながら、厚生労働省管轄と同様の対応をしている点が特長である。

この他、鈴木園長が「通常なら学童保育は、午後6時まで、小学校3年生までと時間も学年も限られている。働く親を応援し続ける幼稚園経営を目指す過程の中で、卒園後の学童施設は必然的に生まれたものである。今後も施設を増やす予定であり、多くのニーズに応えられるよう他園や保育園からの児童も受け入れ、系列の学童塾パピエも併せて、待機児童ゼロを目指していきたい」と語るように、小学生向けの学童保育にも力を入れている。

同園は、読み・書き・計算・体操・音楽などを継続することで、楽しみながら学びの習慣を身に着け、自学自習を通じて心身を鍛えることを目的とした「ヨコミネ式教育法」を導入している。

「幼稚園はコミュニケーション能力や頑張る力を身につける人生最初の集団生活の場であり、とても大切である」と考える新納理事長は、「つらい時も園児たちの笑顔に励まされ、ここまでやってくることができた。『感動』と『喜び』を共有できるこの素晴らしい日常は、この仕事でしか味わえないものであり、これからも地域に根ざした教育、そして子供たち一人ひとりの無限の可能性を信じ、個性を重んじた教育に取組んでいきたい」と今後の抱負を語る。

同園に興味のある方はホームページをご覧ください。(http://www.yaguchi-kg.jp/)

うめナビ 送付先業種

商社	スーパー・小売・百貨店	メーカー	マスコミ	教育(大学・専門学校)	公共機関	ホテル	金融	建設関連	システム関連	その他	合計
12先	24先	18先	59先	30先	15先	14先	33先	20先	11先	73先	309先

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。

「モノ」とともに「心」をお届けする
ハートフルギフトステーション

ジャパンハウス

ジャパンハウス（世田谷区粕谷、菅原義則社長、03・3306・5432）は、明治39年に上野池之端七軒町に漆器の製造卸問屋「小林盆舗」として創業、現在では、ブライダル事業部、アミューズメント事業部等の各部門に分かれて、オリジナル商品の企画開発と販売を行っている。

中でも、先代社長がいち早くニーズを察知し、同社の代表的な部門になっているのが、ブライダル事業部であり、晴れの舞台にふさわしい「メモリアルギフト」を関東近郊の結婚式場やホテル等に納めている。また、アミューズメント事業部では、主にアミューズメント施設等の企業顧客向けの「ポイントサービス」事業の企画・運営を行っている。

平成22年には、東京の今昔物語をテーマに、東京の名所9箇所を江戸と現代で対比するパッケージにミニ大福（大福、草餅、イチゴ、プリン）が16個入った「日本百景」の販売を開始した。おまけに江戸時代の古地図が付いていることもあり、今では羽田空港や成田空港、浅草仲見世通り、東京スカイツリー等で人気のお土産商品となっている。

「多様化するお客様のニーズに対応して、贈り物とともに『心』をお届けしたい。常にお客様が喜ぶ姿を想像しながら、新たな商品開発に取組んでいきたい」と菅原社長が語るように、最近では、あらゆるニーズに対応するため、防災用品や長期保存食も手掛けている。

「古き良き商品の継続的な販売と新しいニーズに合わせた商品作りに重きを置き、『モノ』とともに『心』をお届けする」をモットーに今後も同社は、新たな商品を世に送り続けることだろう。

詳しくはホームページにて！

（http://www.japanhouse.co.jp/）

同社が取扱う漆器

空港等で大人気の「日本百景」

眼鏡のスペシャリスト
「認定眼鏡士」のいるメガネ店

ハセガワ・メガネ

せっかく眼鏡を作ったのに「こんなはずでは・・・」と後悔した経験はありませんか。そんなお客様にこそハセガワ・メガネ（町田市玉川学園、長谷川雅宏代表、042・724・1636）に足をお運びいただきたい。

近視・遠視・乱視・老眼と、眼鏡にも色々あるが、本当に最適な眼鏡を作ることは案外難しいものだ。どんなに視力測定をしても、使用目的に合わないレンズでは見づらく、また、目とレンズの距離や角度が違うと見え方に影響する。こうしたことを踏まえて、確かな技術と知識で眼鏡を提供するのが「認定眼鏡士」という、いわば眼鏡のスペシャリストだ。

認定眼鏡士とは、日本で唯一、眼鏡に関する技能を集約している「公益社団法人 日本眼鏡技術協会」の検定を経て認定される資格である。一度資格を取得しても、メーカーから次々に登場する新設計のレンズや新素材のフレーム、疲れ目やドライアイ等、生活習慣から生じるさまざまな症状など、刻々と変わる業界の動向をいち早く把握しておく必要があるため、資格の有効期限は3年間で、資格維持の厳しい規定を満たさない場合には資格を喪失するというシステムになっている。現在、この資格を国家資格に移行する動きが進んでいる。

ハセガワ・メガネでは、認定眼鏡士の資格を持つ代表自らが、仕入れ、測定、販売、加工、フィッティング等、すべてを一人でこなしている。特に測定やフィッティングに時間をかけ、お客様との会話を大切にし、使用目的や仕事、趣味、日常生活、身長、顔の作りなどを考慮し、ご希望の価格帯で、一番似合う眼鏡をおすすめしてくれる。また、木製のフレームや、耳にかけずに、耳の中にしっかりフィットし、ずれない眼鏡、ネジのない眼鏡等、珍しいフレームの取扱いや、補聴器の取扱いも行っている。そして、何度でも話してみたいと思わせる長谷川代表の気さくな人柄も、この店の大きな魅力のひとつである。眼鏡の新調をお考えの方、一度お店を覗いてみてはいかがだろうか。

店内には多種多様な眼鏡が並ぶ

「認定眼鏡士」である長谷川代表

旬の新鮮なお魚を地域の皆様の食卓へ
豊富な品ぞろえで人気の街のお魚屋さん

魚太

魚太（藤沢市湘南台、滝上航太店長、0466・53・7565）は、湘南台駅東口商店街に今年6月にオープンしたばかりの、話題の鮮魚専門店である。

同店では、「旬の新鮮なお魚を地域の皆様に美味しく食べていただきたい」との考えのもと、滝上店長が長年勤めていたスーパーの鮮魚部門での経験を活かして、その日の脂の乗り具合や魚の状態等を細かくチェックしながら新鮮な魚を仕入れて販売している。

また、店頭でのお客様サービスにこだわる同店では、お客様からの要望があれば、店頭に並んでいる魚は1匹からでも調理するのはもちろん、今なら持ち込んだ魚まで無料で捌くなど、地元湘南ならではのサービスを実施している。

「お客様の買いたい魚の情報を正しく提供し、魚の調理法まで丁寧に伝えたい」と語る滝上店長のこだわりは、店先の商品紹介ボードやわかりやすい説明だけでなく、ほぼ毎日更新されるホームページ（http://sakanayauota.web.fc2.com/）にまで至っており、このこだわりが同店の人気の要因だ。

同店では、徹底した商品の品質管理にも取組んでおり、特に夏場にかけては、店内の温度管理や冷蔵状況、店内清掃の3つは入念なチェックを怠らないようにしている。

滝上店長は、「より多くのお客様に来店してもらい、もっと多くの人たちに魚の美味しさを伝えたい。今後は旬の魚を使ったお寿司や惣菜も販売していきたい」と抱負を語り、より一層地域に愛されるお店を目指して取組んでいく覚悟である。

滝上店長の威勢のよい掛け声が響く店内に是非一度、足を運んでみてはいかがだろうか。

毎日の目玉商品を紹介

鮮魚専門店「魚太」

活気溢れる「高円寺4大祭り」～笑顔と元気を育む商店街の輪～

高円寺商店街連合会

皆さんは「高円寺」という地名を耳にして、最初に何を思い浮かべるだろうか。高円寺阿波おどりや古着店の街という印象をお持ちの方が多いと思うが、それ以外にも古書店などが多く点在するなど、古色と新たな文化が入り交じった魅力溢れる街である。

高円寺には、平行に走る北の早稲田通りと南の青梅街道の間に14の商店街が広がり、1，000を超えるお店が密集している。高円寺阿波おどりの発祥の地である「パル商店街」や、ねじめ正一の小説で有名な「純情商店街」等も高円寺を代表する商店街だ。これらの商店街が加盟しているのが、高円寺商店街連合会（杉並区高円寺北、久保田潤一会長、03・3337・2000）である。

高円寺には4大祭りと言われている大きなイベントがある。春の「高円寺びっくり大道芸」、夏の「高円寺阿波おどり」、秋の「高円寺フェス」、冬の「高円寺演芸まつり」、いずれの祭りも毎年大盛況であり、観客も年々増加傾向にある。同連合会は、街全体を発展させていくことを目的にこうしたイベントの数々を主催している。商店街同士がライバルとして競い合うのではなく、ひとつにまとまってアイデアを出し合い、連携してイベントを運営している点が特長だ。

来年2月7日（金）から16日（日）には、高円寺の冬の風物詩である「第4回高円寺演芸まつり」が開催される。地域の寿司店や居酒屋、神社、駅前広場等、街中で若手落語家、手品師、ジャグラーなどの芸人さんが演芸を披露し、大勢の観客を魅了する。

また、さまざまなイベント会場として利用していただくために、ルック商店街には多目的スペースが新設され、4大祭りを含めたイベントが今後さらに盛り上がることが期待できる。

興味のある方は、是非一度足を運んで高円寺の祭りの魅力を肌で感じてもらいたい。

詳しくは、高円寺演芸まつりのホームページにて（http://www.koenji-engei.com/2013/）

新設されたイベント会場（多目的スペース）

昨年度の演芸まつりの様子

「創造と挑戦」がモットー！マルチカメラ、車載用アンテナ、新商品の開発で社会に貢献

慶洋エンジニアリング

慶洋エンジニアリング（港区新橋、山本浩社長、03・3431・8151）は、車載用アンテナ及び車載関連機器の設計・開発、製造、販売を主業としている他、家庭用のワンセグ防水TVや、モニター付インターホン等も手掛けている。

近年、カーナビゲーションの普及により、急激に車載用アンテナの需要が高まっており、透明素子アンテナで特許を取得し、常に市場のニーズに即応した信頼性の高い製品を生み出している同社には、注文が相次いでいる。

また、同社では、交通事故の抑制を目的として、ドライブレコーダーを製造している。全国の大手量販店でも販売しており、他社に比べて高品質であり、尚且つお手頃な価格で購入することができるため、顧客から好評を得ている。

同社には、新商品を専門に開発する部署があり、この部署が中心となって、全社員から集まった優れたアイデアを吟味しながら商品化している。

大企業にはない、この全社員参加型の新商品開発システムによって開発されたのが、外出先からでもリアルタイムで設置場所の画像を確認することができる「どこでもマルチカメラ」である。介護や医療の分野だけでなく、子供やペットの様子を確認したい一般顧客まで人気が高く、同社のヒット商品となっている。

「58年間続いた地上アナログ放送から地上デジタル放送へと切り替わり、通信手段の高度化、多様化が進んでいる。今後も斬新なデザイン、素材及び機能を駆使して市場にないものを考案して、社会に貢献できる製品を開発していきたい」と山本社長は語る。

同社の詳しい製品情報はこちら！
（http://www.keiyoeng.co.jp/）

透明素子アンテナ

どこでもマルチカメラ

一枚の絵から創造的な立体空間を作り続けて30年 技術と人格の融合を目標に、より良い作品と環境づくりを目指す

日本美術工芸

日本美術工芸（町田市鶴間、村田修社長、042・796・0775）は昭和55年の創業以来、小さなオブジェから数十メートルもある巨大なモニュメントまで、多くの美術造形作品を手掛けてきた。

「立体、建築構造物、デザイン、美術社会風景を原点から見直し、創意工夫を軸として技術、感性の向上を求め、常に改善の精神を基に顧客並びに社会から高い評価を獲得することを使命とする」という方針を掲げ、顧客のニーズに対応した造形物を高い品質で具現化している。また、一級建築設計事務所、一般建設業の登録をしており、建築物の構造計算も得意分野の一つである。

村田社長は、岡本太郎アトリエに在籍して岡本太郎氏や著名デザイナーである佐藤卓氏と出会い、屋内外造形物の企画・設計・製作・施工についてのノウハウを習得した。大型テーマパークのイベント、パレードカーなどを数多く手掛け、その技術力、組織力が高く評価され、今後もさまざまな分野での活躍が期待される。

設計チームによる2D図面から3D解析にいたる設計作業のシステム化を実現しているほか、製作部門では、作業効率、作業精度を高めるためにデジタル技術の導入を推進。DG部門では、最新鋭のUVデジタルプリンターをはじめ、さまざまなメディアに対応するためのインクジェットプリンターを複数台保有している。立体造形物のデジタル化も進行しており、NCマシンによる原型の製作も可能となった。今後さらに規模を拡大するため、最新鋭の5軸型NCマシンの導入を進めているところだ。

複雑化する社会環境において、Win-Winの関係が最も理想的と考える同社にとって、組織の基本はあくまでも人。社内満足度、顧客満足度、社会貢献度、この3原則を念頭において、技術と人格の融合を目標にこれからもお客様の夢を形にしていく。

製作中の作品と村田社長

こどもの城前のモニュメント「こどもの樹」

激しい振動にも緩まず、コストダウンにも役立つ
信念が生んだ耐震防緩ワッシャー「DISC-LOCK」

マツトモ

マツトモ（世田谷区深沢、田口忠社長、03・3704・5771）は、40年以上の業歴を持つ精密機器加工会社である。同社は、東京都信用金庫協会信金協議会連合会が主催する平成24年度優良企業表彰制度において特別奨励賞を受賞しており、その技術力には定評がある。

同社の高い技術力の背景には、仕事に対する社長の信念がある。「お客様がいなければ仕事はできない。数年で他の物に変わってしまう製品では意味がない。お客様に長年満足して使っていただける製品を提供することを心掛けている」と田口社長は語る。

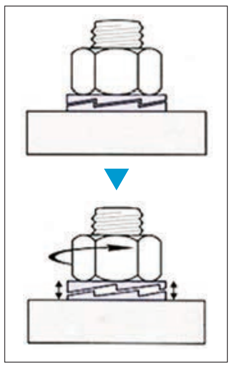
この信念が生んだ同社の主力製品が、2枚1組の耐震防緩ワッシャー「DISC－LOCK」である。開発から10年以上経過した今も、さまざまな現場で使用されている。

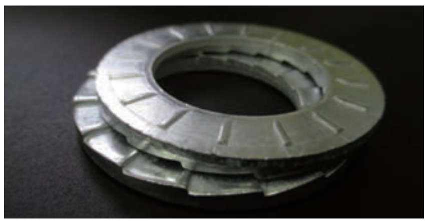
この製品の特長は、橋等の激しい振動のある部分で使用しても、高い緩み止め効果を発揮し、ダブルナット等の必要がなくなり、コストダウンや機械のコンパクト化を図ることができる点にある。

本製品は、片面に互いにかんごうする傾斜した歯と裏側に数条のクサビ状の突起を付けた同一形状のワッシャーを2枚1組として使用する。傾斜した歯を相互に噛み合わせるようにセットしボルトに取付けると、裏側のクサビ状の突起が結合金属及びナットを捉え、それぞれに固着する。振動や衝撃を受けると、ナットは緩む方向に回り始めようとするが、本製品の歯の傾斜は、ボルトのネジ傾斜より大きく設定されており、ナットが乗り越えることができない構造となっている。その結果、ワッシャーがナットと共に回転した際に生じるかんごう部の高低差が増大する締め付け荷重となってナットに作用し、緩みを防止するといった仕組みである。

7月からは本製品の性能試験データの提供を開始しており、田口忠明専務は「ユーザーから良い商品だと理解してもらっても、比較できる根拠となるデータを提供できなければ営業はそれ以上進まない」と現状に満足せず、さらにブランド力を高め、お客様に満足していただけるよう日々試行錯誤している。

コストダウン等をお考えであれば、是非一度、「DISC－LOCK」ワッシャーの採用を検討していただきたい。


「DISC-LOCK」の自己締結メカニズム


耐震防緩ワッシャー「DISC-LOCK」

一度食べたら虜になる「旬にぎり」
美味しいと話題の自由が丘のお寿司屋さん

寿司 春

寿司 春（目黒区緑ヶ丘、吉澤博店主、03・3724・1448）は、東急東横線・大井町線自由が丘駅から徒歩7分のお寿司屋さんである。

自由が丘のお寿司屋さんと言えば、高級で敷居が高いイメージだが、洗練された上品な外観とは対照的にアットホームな店内は、気さくな吉澤店主と明るく元気な女将さんがいつでも笑顔で迎えてくれる。

ここで握られるお寿司は、天然魚だけにこだわり仕入れた新鮮なネタと、口の中でほろりと崩れるような繊細な握りのシャリとの絶妙な組み合わせで、来店されるお客様を虜にしている。

同店一番の人気メニューが、近海物にぎり十一貫と巻物一本で一人前3，670円の「旬にぎり」である。季節に合わせた旬の選りすぐりネタだけを使っているにもかかわらず、良心的な価格設定になっている。特に江戸前の穴子の握りは、ふっくらとしていて「タレ」と「塩」どちらも美味しく、食通を唸らせている。また、自家製の玉子焼きやガリといった定番の品にも真心がこもっており、どれも記憶に残る旨さである。

「独身時代から仕事帰りに寄っていただいていたお客様が、今では結婚してご家族と一緒にご来店くださっている」と嬉しそうに語る吉澤店主の表情からは、地域のお客様にとにかく愛されている様子が伝わってくる。

「家族ぐるみでも安心の価格設定で、出前も夜11時まで一人前よりお受けしております。地元の方はもちろん、自由が丘にお越しの際に是非お立ち寄り下さい。一期一会の出逢いを大切にしておりますので、大切な時間を寿司 春で過ごしてよかったと心から思える大満足のお寿司を、ぜひご賞味ください」と語る吉澤店主は、皆様のご来店をいつでもお待ちしている。

店主の吉澤夫妻

同店自慢のお寿司

身近なプラスチック部品から、人工衛星まで
CFRPなど最先端素材を活かしきる技術力

三協製作所

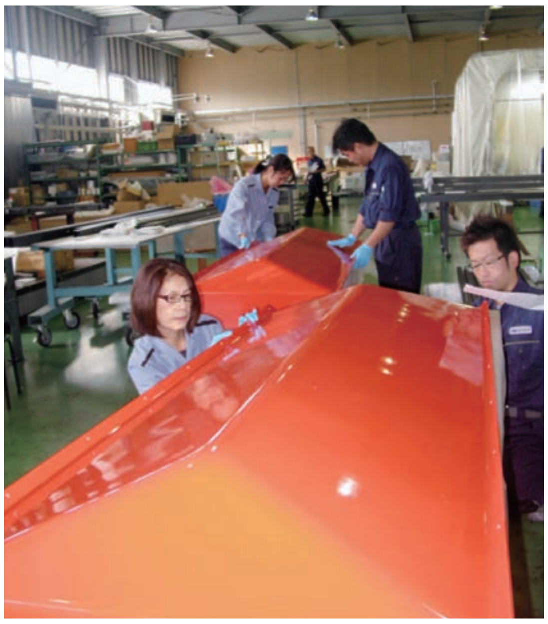
三協製作所（横浜市都筑区池辺町、森本鉄身社長、045・934・6670、http://www.sankyo-ss.co.jp/）は、業歴40年を数え、プラスチックの他、ガラス繊維強化複合材（GFRP）、非鉄金属、セラミック切削材など幅広い複合材を素材とした各種製品の解析・設計・加工組立を手がけてきた。中空ロボットハンド構造をはじめ複数の製造特許を取得するなど、独自の加工技術と設計力をもとに、新素材・複合材料の最適応用開発を通じて独自の提案を行い、お客様のニーズに迅速に対応している。

特に、注目の最先端複合材料であるカーボンFRP（CFRP）については、数多くの実績がある。CFRPとは、炭素繊維で強化されたプラスチックのことを指し、鉄と比較して1／5の質量、2倍の剛性、1／10の熱膨張率を持ち、強度も鉄と同等である。金属と違い、X線や電波を透過しやすい点も特長だ。軽量・高剛性なCFRPの技術を活かした製品は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の人工衛星の構造体のような先進性の高いものからX線CT・車椅子・義足のような医療機器、ギア・バネ・ボルトといった慣用的な産業用部品、スポーツ・レジャーなど身近な生活用品まで、大変多岐にわたっている。

広範な取扱い製品に対応するため、成形から機械加工、組立まで行うことができる一貫工場を千葉県袖ヶ浦市に所有している。ISO9001認証も平成12年に取得、業界でもトップクラスの技術力は折り紙つきだ。

本年は、東日本大震災の津波に耐えた陸前高田市の「奇跡の一本松」のレプリカにも、同社の技術・材料が提供された。同社の経営理念「積極的に新技術に挑戦し、広く社会に貢献する」を実践した活動を続けている。

「これからも、常に高い顧客満足度をめざし、品質向上のための継続的な改善を怠らず、社員とともに一意専心で取組んでいきたい」と森本社長は情熱を傾ける。


レーダーなどを雨雪から守るGFRP製カバー

※うめナビのバックナンバーは城南信用金庫のホームページ（http://www.jsbank.co.jp/2/1-2.html）からご覧いただけます。
●発行日／平成25年11月 ●発行／城南信用金庫 企画部（お問合せ電話）03-3493-8111 ●印刷／光写真印刷株式会社